

伊達市

地域おこし支援員 活動報告

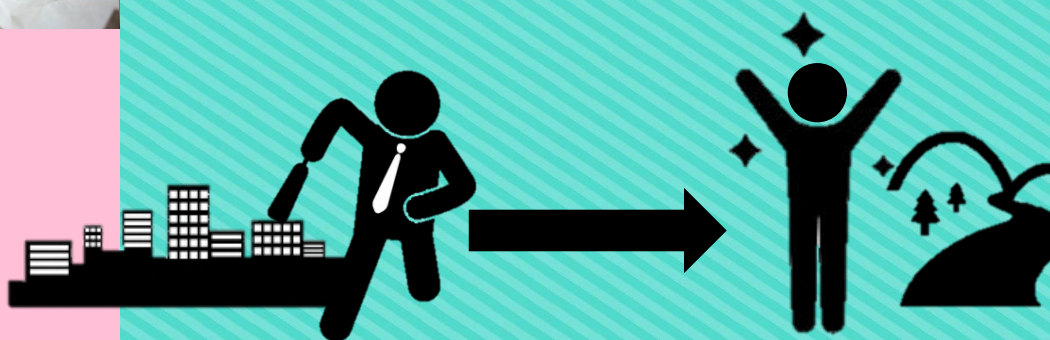
2019年度



地域の活性化

魅力の向上

課題解決



中山間地域で自分の力を発揮したい！田舎暮らしがしたい！

伊達市に来た理由は様々。

「地域おこし」って何だろう・・・

何をすべき？何ができる？何からやればいい？

迷いながらも地域のみなさんと一緒に挑戦してきた地域おこし支援員。

伊達市への想いやサポートしてくれる人々の声など、

地域おこし支援員の活動をまとめました。

活動目的

人口減少や高齢化等の進行が著しい地域において、地域外の人材を積極的に受入れ、「よそ者」「若者」などの視点と感覚で地域協力活動を行ってもらい、地域力の維持・強化を図るとともに、支援員の定着・定住に結び付けることを目的とした制度です。

活動期間

おおむね1年以上、3年以下の期間。市の委嘱を受けて、地域で生活しながら、様々な地域協力活動を行っています。

伊達市では国の「地域おこし協力隊」制度を活用し、独自に「地域おこし支援員」として委嘱しています。各担当地区での活動を柱としながらも、固定の場所や業務に捉われることなく自由な発想で、幅広い年代の住民と連携しながら活動していくことが、地域の将来につながる一歩だと考えます。

地域おこし支援員、支援員をサポートする地区の協力員、地域のみなさんと一緒に課題の解決、地域の魅力・発信、新たなつながりを作ることなど様々な角度から地域に向き合って活動しています。

月舘町
布川地区担当

小林朗子
(あまこ)

2020/3/2 活動開始
東京都板橋区出身

今年 2 月末、コロナで移動の制限が出る前に滑り込み移住。

イベントや地域活動が中止となって、お会いできていない方がたくさんいらっしゃいます。きっとこれからお会いできると思いますので、その日を楽しみにしています！

現在、月舘産小麦を使った商品開発を活動の 1 つとして、つきだて花工房お隣の『もりもり』で、焼き菓子とパンの販売を始めました。(毎月第 2、第 4 土曜日に納品)

月舘産小麦
【ゆめちから】を
使ったベーグル

パン・焼き菓子製造拠点
の元月舘保育園。
『小麦工房 La Luna』とし
て再始動。

ここでのパン教室

月舘産小麦を使ったパン・
焼き菓子教室を開催します

詳細は QR コード→

小麦工房 La Luna 直売デー

殿ノ上集会上に月 1 回開催♪日程は一





野村明祥

月舘町糠田地区担当

東京都 出身

2017/4/1 活動開始

趣味：ツーリング ピアノ

読書 料理

外と中をつなぐ架け橋 ～関係人口と担い手～

地域おこし支援員三年目。

三年間の集大成。ここに必要なこと。できること。その間にある可能性を実現するために考えられる発展への糸口をつかむために活動を展開してきました。

❖ 足りない若手、どうする？ ❖

伊達市に限ったお話ではありませんが、地方に言える最大の課題点は地域の中における**若手(20代～40代)の不足**はあらゆる問題につながっています。ではなぜ地域に若手が足りないのか。考えられるのは①**高校卒業と同時に大部分が地域を出る選択をする**。②**地域にかかわる余裕がなく、そのきっかけがないこと**。

大きく分けてこの二点ではないでしょうか？ではなぜこれが引き起こされるのか。それは**今いる自分の地域に魅力を感じていないから**ではないでしょうか？

では、そこに魅力があることを示していきましょう

というのが私の活動でした。



外からはどう見える？ 地域おこし協力小隊

田舎を出て都会で暮らしたい。高校卒業後の多くは進学や就職を機に**地域から出る選択**をしています。それそのものを全く否定するわけではありません。ただ、**自分たちが気づいていないところにも学びや経験**

の場が転がっていることを示すことができれば、、、そして地域の担い手不足を外からの人員で補填できないか、そんな発想の元、この活動は始まりました。



そこで息をして、味わって、つながるということ



はじめは慣れない田舎で知らない人と関わり**おっかなびっくり**。それは回を重ねていくことで確かな**信頼と絆**に変わっていきました。



そして訪れた試練の時。**台風 19 号の襲来**。
「こんな時だからこそ力になりたい」とあえてこちらに乗り込んできてくれました。



駆け抜ける！サイクリスト！

“田舎は遊ぶところがない。”
みんな揃って口にするこの言葉。
本当ですか？ 普段当たり前に目の前を通り過ぎる景色も**ちょっと見方を変えてみると**他では味わえない良さがあったりするものです。



そして、自転車で移動する彼らは**食べ物や飲み物がガソリン**です。つまり、地域のイベントごとに参加してくれるたびにそれはそれはたくさん飲み食いしていただきます。さらに、今まで人が集まらなくて消極的になっていた地域の集まりにも交ざり、地域も彼らが来てくれるなら、と**モチベーションの維持**につながります。そう、担い手が内側から崩壊しようとしているとき、双方向により循環をもたらすことができるわけです。



そして、その先へ、、

育ててきた小さな二つの火を、次にどうつなげていくか。サイクルツーリズムは現在R1年度に**廃校となった校舎の利活用**に向けて地域で集まり、月館を目指してやってくるような目的地にするべく現在鋭意画策中です。地域に住む人にとって、そして外から来たくなるような施設を作りたいですね。



協力小隊は当初から学生たちによる地域の若返りを狙いつつ、同時に彼らの柔軟な発想を取り入れることも視野に入れた活動でした。参加学生からの提案は多岐にわたりますが、なかでも注目したいのはインバウンド。**日本にやってくる外の目線はローカルな場所を求めている**。そう断言したのは国際文化学科の三年生。これからの時代に合わせた国際交流も行っていきたいです。



地域の方の声

MARUCHOFARM 菅野敏弘さん

野村さんとはこの一年くらいしょっちゅう顔を合わせたな。最初は地元の農産物を東京で売ってくれるってことでありがたいな、くらいに思った。

そこから始まって月に一度学生を連れてくるようになって月館の中ではほとんど見ないような年代の人たちとのつながりができて、自分たちにはない発想で地域を見てくっちゃんのは自分たちがかえって勉強になった。若い人の考えを聞いたり若い人と関わることなんて他にねえべした。みんないい子たちだったし。うちはすぐよかった。あとはこれから廃校になった小学校のことや地域のためにももっと人を集めて、月館を元気にしていってくれたら最高だな。このままでは遊園地も商店街もない月館なんて誰もこねえべした。そしてなによりここで野村さんが嫁さん見つけていてくれたらいいことねえな（笑）



地域の魅力をじっくりと (愛しみ～磨き～伝える)

地域おこし支援員 2 年目活動中。

地元の皆様に支えられ、地域に寄り添いながらその魅力を磨き・伝え・ゆっくりですが共感の輪を広げる活動を続けています。

山口県 出身

2018/7/1 活動開始

趣味：楽器演奏（バンド活動）

街道歩き、神社散策

＼ 里山を愛しむ ＼

地域で活動していくにあたって自身が**地域の住民として同化する事**。

歴史、伝統芸能、自然、食農の豊かさにあふれた霊山大石地区は里山の魅力がいっぱい。自身もその**体感者**として地域イベントや自治会活動をお手伝いしています。

霊山太鼓



霊山太鼓の魂の響きは霊山の人々の誇り。地元の太鼓保存会にはいり、毎年 8 月の霊山太鼓祭りでは叩き手としてイベントを盛り上げています。

伝統芸能への参画

瀬鯨の舞



毎年 4 月に開催される霊山神社の春の例大祭。地元の方々が伝承“瀬鯨の舞”という雄々しい剣舞を披露します。

里山の自然・文化の体感



聖徳太子を祝う女人
禁制の神事、太子講



北又の秋祭り。子どもたちによる獅子舞奉納による無病息災の祈願。



笹ノ峠のリンドウ



日影の枝垂れ桜

里山を磨く

豊かな里山の資源は、実は地元にもあまり知られていないものも多くあります。支援員として赴任後一環して取り組んできたのは“**里山の見える化**”と“**内外への PR 活動**”。里山の素晴らしさを少しでも多くの方々に知ってもらうことで、地域に対する愛着意識が広がっていけばと考えています。

里山の見える化



地元大石地区の文化財マップを看板で設営、19年に自治会メンバーとなつての最初の成果となりました。



大石地区の桜マップ



ウォーキングマップ

大石食べもの博のPR



毎年 11 月に開催される地元の食のイベント“大石食べもの博”では広報として、ポスター制作やメモリアルブック（レシピ集・写真集）の刊行を行っています。このイベントから今後新たな食の名物の創出に繋がっていかばと思っています。

霊山を愛しみ・磨き・伝える

史蹟・名勝にうたわれた名峰霊山は自然と歴史があいまった当地区を代表する観光スポット。この霊山の山案内の会（**霊山道先案内人会**）に加入、案内人として登山客のおもてなしができる事は自身の良い経験です。当会では 1 年間のプロジェクトで“**霊山のガイドブック**”を 20 年 4 月に刊行、霊山の魅力をより多くの方に知ってもらうベースができました。

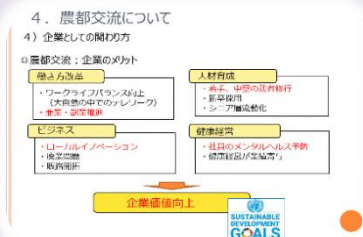


農都交流推進

都会に住む人々がもっと地域に関心を持ち、気軽に地域と関係をもってくれたら…。自身がもっている首都圏の人脈を生かし、特に**企業が地方と関わることで地方との WinWin を築けることができないか**？企業講演や情報収集活動を最近行っています。今年のコロナ禍で食が豊かで健康的な地域に対する興味・関心は高まってきたように感じます。今回を逆バネに地域の活性に繋がる可能性を模索中です。



東京の某 IT 企業での講演



講演資料（抜粋）

地域の方の声



大橋克之さん

霊山のガイドブックの作成や各種イベントの支援など、多岐にわたって地域のために取り組む姿勢を見ると、浜田さんに来ていただいて本当に良かったと思います。新しい方向性を見出す能力に長けている方で、**地域住人では中々気づきにくい大石の魅力を発見、発信**してくれる貴重な人材です。また、“**霊山学**”という地域

の歴史勉強会にも積極的に参加し、**学んだ事を実成果に繋げる活動**を行っている事には感心します。

霊山道先案内人会では念願の霊山の景観整備にも本格的に乗りだします。今までの活動は言わばまだ点です。**点と点を結んで線にしていって、継続させることこそが大切だと私は考えてます。**浜田さんには、活動の基盤作りを含め、今ある目標に向かって引き続き尽力していただければと思っています。





◀ 日々の活動を発信中！ ▶

**伊達市地域おこし支援員（地域おこし協力隊）
Facebookページ**

» <https://www.facebook.com/dateokoshi>

伊達市地域おこし支援員 Facebook



発 行：伊達市役所 総務部 地域振興対策室

電 話：024-575-2115

メー ル：sinkou@city.fukushima-date.lg.jp